



地域とつながるFFG連携プロジェクト

FFGの幅広いネットワークを活かした地方創生の具体的な事例をご紹介します。

長崎県佐世保市・九十九島動植物園60周年記念

地元の高校生が制作した絵本「森きららのそらとぶペンギン」刊行の取り組み

私たちFFGは、「地域と共に未来を創っていくこと」をスローガンに、観光・農業・雇用・産業・健康・教育など様々な分野での地方創生に取り組んでいます。今回は、自治体や民間事業者、高校と連携した取り組みをご紹介します。

このプロジェクトは、2020年11月、私（十八親和銀行地域振興部・長尾）がプライベートで訪れた「九十九島動植物園 森きらら」での今井大貴さん（現長崎県立佐世保西高校3年生）との奇跡の出会いからはじまりました。

今井さんは、2020年7月から地方創生をテーマにした授業の一環で、幼いころからよく足を運んでいた同園の絵本の制作をしようとした。週末は園内の動物たちのスケッチなどに取り組んでいました。この日もいつものように、フンボルトペンギン「さくら」のスケッチや、ペンギン飼育担当の比嘉さんと同園の取材についてアドバイスをいただいていたところをこちらから声をおかけしました。話を聞かせ

ていただいたところ、「森きららのペンギン」をテーマとした絵本を描いているとのこと。さっそく、絵本を拝見したところ、ペンギンさくらと飼育員さんが心を通わせていく、あたたかいストーリーと感動あふれる絵。

「この絵本は売れるし、同園のPRにつながる！」と思い、急遽、同園の企画担当者である福田さんともミーティングをさせていただきました。

「九十九島動植物園 森きらら」は、開園60周年の節目を迎える年ということもあり、2021年4月19日にiBankマーケティングが運営するクラウドファンディング「エンニチ FUNDING」にて絵本の販売が開始されました。4月24日には当初販売予定の150冊を完売、50冊を追加販売しましたが、追加分もあっという間に完売しました。

「エンニチ FUNDING」での販売終了後は、「九十九島動植物園 森きらら」や「九十九島水族館 海

絵本作家としてデビューした佐世保西高校3年生今井大貴さん



佐世保市長表敬訪問



iPadで絵本づくり中の今井さん



絵本「森きららのそらとぶペンギン」

さらさら」で販売を継続し、9月末時点で累計511冊を販売しました。

また、今回のプロジェクトでは、産学官金連携により、「二人の高校生絵本作家のデビュー」と「森きさらら60周年事業のサポート」を実現することができました。

尚、十八親和銀行では、本件取り組みにとどまらず、「九十九島動植物園森きさらら」や「九十九島水族館海きさらら」等の佐世保市指定管理者である「ささげパール・シー株式会社」に出向者を派遣し、来場者数増加や佐世保市への交流人口の増加を目指した地方創生の取り組みを支援しています。

今後もFFGのプラットフォーム提供やプロモーション支援による本プロジェクトの推進はもとより、地域産品の販路拡大、エリアマネジメント支援による地方創生の取り組みを進めていきます。

「森きさらら」・「海きさらら」で楽しい休日をすごしてみませんか？！



ペンギン館



ペンギンさくらと絵本



ライオンのアサヒ



対州馬による乗馬体験

開発事業部兼動植物園事業部 河添部長(十八親和銀行から出向)



十八親和銀行 地域振興部
兼iBankマーケティング 長尾
【お問い合わせ】TEL (095) 827-8609

ストーリーでつながる、銀行系地方創生メディア

 bank baton



【SDGsとは】2015年9月の国連サミットにおいて全会一致で採択された国際目標です。2030年までに「誰ひとり取り残さない」社会を実現することを目指しており、下記の17の目標(ゴール)と、更に細分化された169のターゲットから構成されています。

